

平成20年度「専修学校教育重点支援プラン」成果報告書

事業名	eラーニングを活用したリメディアル教育プログラムの開発		
法人名	学校法人産業技術学園		
学校名	北海道ハイテクノロジー専門学校		
代表者	理事長 宮川 藤一郎	担当者 連絡先	鈴木 紘次 TEL 0123-36-8119

1. 事業の概要

本事業では、専門学校生の文章力の低下、および、インターネットを安全・安心に利用するための基本的な知識(ネットセーフティ)の欠如の対策として、第1学年の学生および入学予定者を対象に、eラーニングシステムを用いたリメディアル教育プログラムの開発と実証を行った。

開発に先立ち、専門学校生の文章力の現状を明らかにするために、日本語文章能力検定を用いた実態調査を行った。また、文章力の低下が専門学習に与える影響を明らかにするために、全国の専門学校教員に対して、専門学校入学者の文章力に関する見解調査を行った。

以上の前段作業をもとに、教育コンテンツの開発を行い、eラーニング化し、実証実験によってその効果や有効性の検証を行った。

2. 事業の評価に関する項目

①目的・重点事項の達成状況

本事業では、専門学校進学者に対する入学前後のリメディアル教育プログラムとして、eラーニングの開発と実証を行った。

基礎学力、特に、文章力(日本語文章の読み書きの能力)の低下は、「専門書が読めない」、「実験・実習のレポートが書けない」といった事態を招くなど、専門分野の学習を進める上で大きな障害になっている。また、専門教育の現場で欠かせないインターネットの活用面では、インターネットを安全・安心に利用するための基本的なモラルやマナー、セキュリティに関する知識(=ネットセーフティ)の欠如が見られる。

これらの実情を背景とし、自己学習形態ではあっても、積極的な姿勢でリメディアル学習に臨めるように工夫したeラーニング環境を構築し、そこに文章力とネットセーフティの向上をねらったコンテンツを展開し、その教育と実証を行った。

学生に文章力を向上させることの重要性に気付かせることに成功し、また、ネットセーフティに対する認識・意識を高めることができた。このことより、本事業が重点事項とした文章力とネットセーフティの向上を目的としたリメディアル教育プログラムの開発・実施の目的を達成することができた。

②事業により得られた成果

本事業では、まず専門学校進学者に対する入学前後のリメディアル教育として、自己学習形態ではあっても、自ら積極的な姿勢で学習を進められるeラーニングを構築した。そして喫緊の課題である文章力およびネットセーフティ等を対象にコンテンツ化することを目的とした。

教育プログラムには、内容面とシステム環境面でそれぞれ大きな特徴を持たせた。

内容面の特徴としては、「文章力」と「ネットセーフティ」に焦点を当てたことにある。「文章力」コンテンツでは、所属学科の学習分野に直結した「医療系」の専門用語や文章を題材として利用し、文章力の学習を継続させる意欲を喚起させることに重点を置いた。また、「ネットセーフティ」コンテンツは、学習項目の体系化を行った上で、そこに位置づけられた事例に基づくテスト問題を作成した。

実証講座は、これらのeラーニングを用いて実施した。実施後のアンケート結果では、文章力に関する学習の必要性を認識させることができた。また、ネットセーフティの内容が参考・再認識になったという意見が多数を占めた。結果として、本事業の目的を十分に達成することができたと考えられる。

③今後の活用

本事業で開発した文章力向上に関するeラーニングには、医療系学科の分野に直結した用語や文章を素材として利用し、学習者に興味を持たせ、それを持続させる仕組みや目標設定機能を取り入れた。また、ネットセーフティ向上に関するeラーニングは、具体的な事例を素材として開発した。それにより、高い学習効果をあげることができた。今後も、専門学校入学前後のリメディアル教育として本事業のコンテンツを継続的に活用していく。

④次年度以降における課題・展開

本校入学生のリメディアル教育に使用することはもとより、事業成果物である実証実験報告の内容を広く公開し、CBTコンソーシアム等の団体を通じた普及活動を行うことにより、他の専門学校等へ展開および利用促進を図る。

3. 事業の実施に関する項目

①ニーズ調査等

本事業の実態調査として、平成20年11月15日に専門学校生の文章力の現状を明らかにするために、本校の学生148名を対象に日本語文章能力検定3級を実施した。

また、文章力の低下が専門学習に与える影響を明らかにするために、全国の専門学校教員100名を対象に、専門学校入学者の文章力に関する見解調査を行った。実施は平成21年2月で、インターネットリサーチを利用した。

②教育プログラムの開発

実態調査の結果をもとに、文章力の向上、および、ネットセーフティの向上を目的としたeラーニングシステムを開発した。

文章力向上eラーニングのコンテンツは、直接的な能力向上よりも、学習者に文章に関する学習の意義を明確に理解させ、継続的な学習意欲を喚起できる「動機付け」や「気づき」に重点を置いて開発した。そのため、医療系学科の学習分野に直結する「医療系」の専門用語や文章を学習の素材として利用した。

ネットセーフティ向上を目的としたeラーニングのコンテンツは、まず、平成18年度文部科学省委託事業、「すべての先生のための『情報モラル』指導実践キックオフガイド」(社団法人日本教育工学振興会)を参考に学習項目体系を構築し、その事例に基づいたテスト問題を開発した。

③実証講座

本事業で開発した文章力向上を目的としたeラーニングシステム、および、ネットセーフティ向上を目的としたeラーニングシステムの実証を目的として実証講座を実施した。

文章力向上に関する実証講座

テーマ: 「医神 アスクレピオスの物語」

受講者属性: 北海道ハイテクノロジー専門学校 1年生 20名

実施日: 平成21年2月17日～2月19日

実施場所: 北海道ハイテクノロジー専門学校

受講者の反応: 文章に関する学習の必要性を感じたという意見が多かった。

ネットセーフティ向上に関する実証講座

テーマ: 「情報モラル」「コンプライアンス」「セキュリティ」

受講者属性: 北海道ハイテクノロジー専門学校

1年生 21名 3年生 26名 合計47名

実施場所: 北海道ハイテクノロジー専門学校

受講者の反応: 「参考・再認識になった」という意見が多数を占めた。

④その他

本事業で開発したeラーニング環境およびコンテンツは、分野横断的に活用できる汎用的なものであり、広く専門学校の連携を促すことができる。さらに個別的なコンテンツをそれぞれ開発し、CBTコンソーシアム等多くの専門学校や企業が参加する団体の活動を通じて相互利用できるスキームの構築を目指したい。